

小笠原硫黄島における火山性異常について

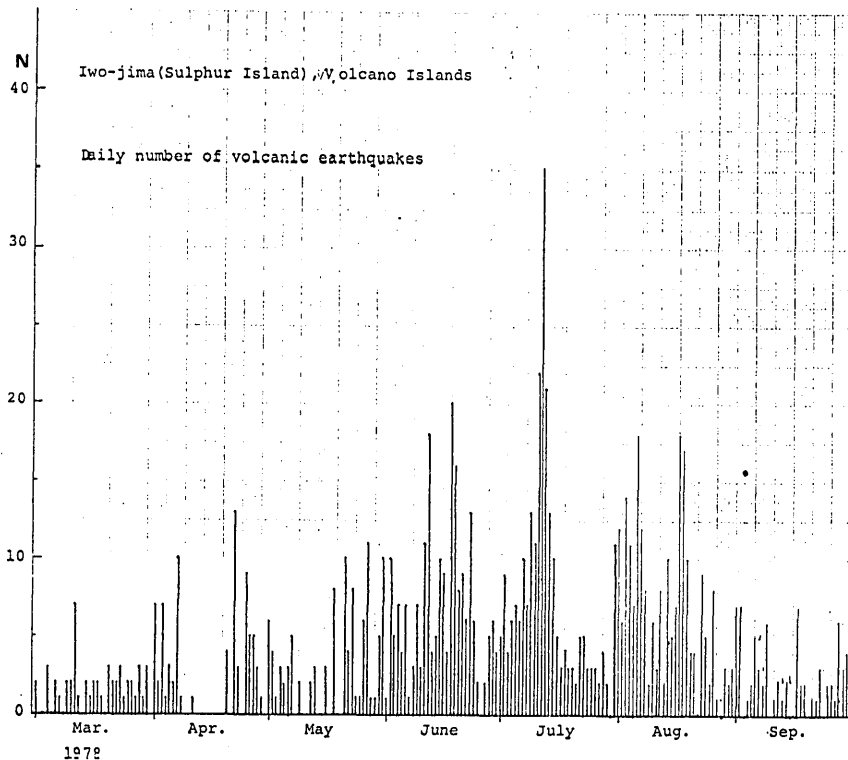
(その6)*

国立防災科学技術センター

最近の火山列島硫黄島における地震活動および地殻変動の状況について報告する。

1. 地震活動

1976年3月以来、地下壕(武蔵野壕)において地震の連続観測を行っており、その概要はすでに報告^{1),2)}してあるが、最近7か月間(3~9月)における日別地震回数(第1図)と、月別日平均地震回数(第2図)は、それぞれ図に示したとおりである。これらを見ると7月を中心に前後3か月ほどは地震活動の活発な時期であった。しかし、これまでに観測された日別地震回数の最高40回、同じく5日間総計88回のいずれとも同じ程度である。

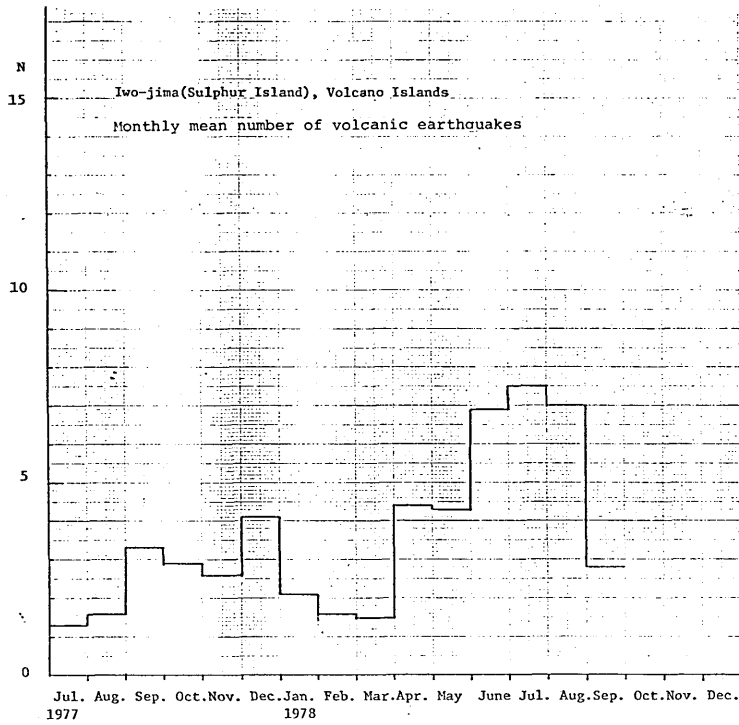


第1図 火山列島硫黄島における日別地震回数(1977.6~1978.9)

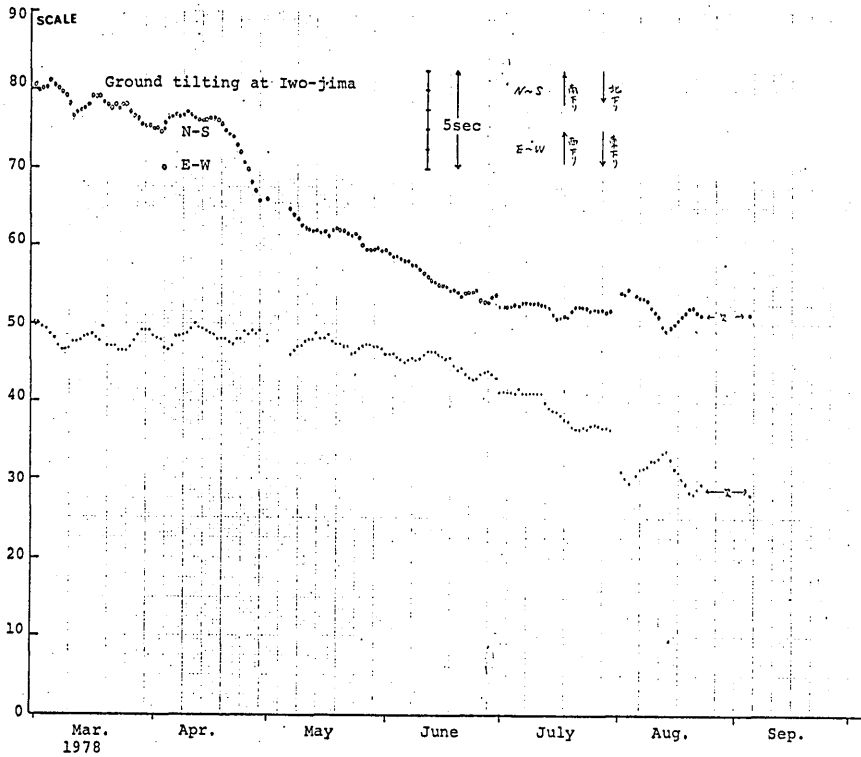
2. 地盤傾斜変動

地震とともに高感度地盤傾斜計による地殻変動の連続観測を行っており、落雷による観測の中断などあったが、最近の観測結果は第3図に示すような状態である。南北成分は4月下旬に5秒程度、また、

* Received Jan. 11, 1979



第2図 火山列島硫黄島における月別日平均地震回数(1977.6~1978.9)



第3図 火山列島硫黄島における地盤傾斜(1978.3~9)

8月に両成分に多少の変動がみられたが、その原因ははっきりしない(温度変化によるものではない)。

地震活動の推移については注目はしていたが、上述のように、従来の変動範囲を越えるものではなく、また、地盤傾斜、温度や断層変動など他の諸観測および、地表状況に特に異常もみられなかったので、観測および警戒体制を特に強化する必要は感じられなかった。地震活動としてはこの程度の活発化は平常的な変動範囲とみてよいことが確認されたと考えている。

参 考 文 献

- 1) 国立防災科学技術センター(1976):小笠原硫黄島における火山性異常について(その4)、火山噴火予知連絡会会報、No.7、28～31
- 2) 国立防災科学技術センター(1977):火山列島硫黄島の地震活動、火山噴火予知連絡会会報、No.8、56～61